

総裁記者会見要旨 (10 月 19 日)

G7 終了後の額賀大臣・福井総裁内外記者会見における総裁発言要旨

2007 年 10 月 20 日

日本銀行

於・ワシントン

2007 年 10 月 19 日(金)

午後 7 時 20 分から約 20 分間(現地時間)

【冒頭発言】

今回の G7 では、米国のサブプライム問題をきっかけとする国際金融資本市場の動揺が、米国をはじめとする世界経済に対する不透明要因となっているが、エマージング市場諸国の高成長もあって、世界経済は堅調な拡大を続けているとの認識が共有されました。

今般の国際金融市場の変動について、私からは、
良好な世界経済や金融環境が続いてきたもとで、市場参加者のリスク評価が緩に流れ、その後、市場の自律的機能による巻き戻しが生じたものとみることができる。金融のイノベーションは、リスク分散や市場の効率性を高める効果をもたらすものであり、その流れを止めることは望ましくないし、可能でもない。もちろん、市場参加者が、高度化する金融商品の価格やリスクの評価をきちんと行うことが必要であり、どうしたらそのようなインセンティブが働くようになるか考えていくことが重要である。

という考え方を述べました。他の参加者の認識も概ね私の説明に異議がなかったと思っています。

日本経済の状況や日本銀行の金融政策の運営についても説明を行いました。日本経済は緩やかに拡大を続けており、先行きについてはサブプライムローンや国際金融市場の混乱が世界経済に与える影響には留意する必要があるけれども、日本経済は生産・所得・支出の好

循環のメカニズムが維持されるもとで、息の長い成長を続けていく蓋然性が高いこと、物価面では、消費者物価の前年比は目先ゼロ%近傍で推移する可能性が高いが、より長い目で見るとプラス基調を続けていくと予想される、と述べました。

こうした情勢のもとで、金融政策につきましては、これまでと同様の考え方に立って、経済・物価情勢の改善の度合いに応じたペースで、徐々に金利水準の調整を行うことになる、と述べました。

最後に、アジア経済については、引き続き高成長を辿っておりまして、世界経済の牽引役の1つとなっていることを簡潔に説明しました。

(以下質疑)

【問】 コミュニケに表現されている「我々は、力強い世界経済の成長を維持するための役割を果たすことに引き続きコミット」というのは具体的に何を指しているのでしょうか。

【答】 色々なことが意味されていると思います。現状に則して申し上げれば、国際金融市場の混乱が秩序ある形で新しいステージに移っていくなかで、これからドラギ総裁の下でFSFも色々な提言をして来るとは思いますけれども、市場の中でより規律が働き易い、インセンティブが良く働くような市場のフレームワークを作っていく仕事が基礎工事としてあると思います。その間、中央銀行としては、市場の安定、市場の機能をより良く発揮させるために必要な流動性の供給を続けていく必要があると思います。それらを前提としながら、引き続き各国中央銀行としては、物価安定のもとでの持続的成長をより長く続けていくために、経済のファンダメンタルズの先行きを良く読みながらタイムリーな金融政策を適切に行っていくということが共通の認識になっていると思います。

【問】 今日のニューヨーク株式市場は金融市場の混乱、金融機関の決算の悪化を受けて、360ドル余りの値下がりとなり、今週に入ってから市場はかなり動揺を続けているような状態です。今回の声明をみると新興市場国の成長に頼っているような印象を受けるのですが、実際に世界経済は順調に推移できるか、もう一度ご意見を伺います。

【答】今の市場で起きていることは、市場の中で価値とリスクを正しく評価し直す、リプライシング(再評価)のプロセスが進んでいるということだと申し上げてきております。これは市場が元の姿に単純に戻るということではなく、まさに新しい評価替えをしながら次のステージに入っていくということですが、リスクの再評価は言うが易く行うのはなかなか難しいことでございます。そこを市場が探り当てながら次のステージに進んでいくということですので、資産担保証券の市場を見ても、あるいはより広く社債市場を見ても、株式市場を見ても、為替市場を見ても、多少行ったり来たりしながら、均衡値を探っていくというプロセスをどうしても辿っていくと思います。一直線にスムーズに一点に収斂していくというよりは、現実の市場は多少揺れながら動いていくことは避けられません。今日の相場は詳しくは見ておりませんが、そうした動きの1つと理解していただければと思います。

以 上